

4年目の3.11を迎えて 東海第2原発運転差止 住民訴訟

法廷に静かに訴える母親の声



裁判のあとの報告会で
法廷に立った気持ちをお話する
加藤由紀子さん

常総生協が地域に呼びかけ、提訴した東海第2原発運転差止の住民訴訟。東京電力福島第一原発事故から4年目を迎えた2015年3月12日、水戸地裁301号法廷に住民原告の母親の静かに震える声が法廷に響いた。

娘は保育園の頃のことを思い出し、「なんでだろうね、いつからか裸足がダメになったんだよね…」と言いました。娘のためにと、泥んこになって遊ぶ環境を選んだはずなのに、311以降はいつも被ばくの恐怖がつきまといました。娘が花を摘むにもドングリを拾うにも神経を尖らせ、私自身が311以前のように心から安心して生活を楽しめなくなり、娘も自然に触れながら遊ぶ機会が減ってしまいました。原発事故が起こり、娘の生活も遊びも変わってしまったのです。そう思うと娘がかわいそうで、私が今、娘のためにと考えてやっていることが本当に娘のためになっているのかと、悩み続けています。

.....

私は、これから生きていく子どもたちのために、原発の再稼働には絶対に反対です。子どもたちにとって良いこととは何なのか、子どもたちのために今、何を選択するべきなのか、そのことを最優先に考えてくださいますようお願いいたします。

法廷は静まり返った.....

原告加藤さんの陳述は別途全文を掲載します



3. 11から4年（5）～検証2011年

○「原発震災」という事

震災と原発事故の最初の2週間、いったい何をしていたのか？「ことごとく1日遅れの対応となってしまう」ひとつの要因は「震災」と同時の「原発事故」にあり、それは「安否確認・救援」と「初期放射線防護」に同時に対応することを身をもって経験したことでした。

「原発震災」という概念はすでに1997年に地震学者の石橋克彦さんが警告していた事でした。

○被災地に生協が向かうという事

初日の、組合員家族に地震によるけが人や不明者はいないかからはじまり、食料品の供給に全力を尽くしながら、東北地方の生産者、関係者の安否、生存が確認できはじめたのは1週間後以降でした。

道路や交通がようやく回復しはじめ、余震が続いて「また大きな地震が来るのでは」という不安を持ちながら、一部欠品があってもなんとか組合員への商品供給のメドが立った14日（月）以後。

初期の放射線防護対策としてできうることの手配をした上で、15日朝から専務・常務を呼んで「被災地ではそろそろ食べるものが尽きる頃。寒い思いをしているだろう。組合員への物資の提供が一段落次第、店舗・共同購入の在庫食料を東北へ運ぼう。協同組合の先輩である賀川豊彦は関東大震災の翌日には横浜に着き炊き出しをしている。現代の我々が何日もかかっている。何百万円かの生協の損失が発生するが了解してもらえるか。組合員にも了解してもらおう。この事態の中で、この期に及んで自分たちだけが食べられればよいというわけにはゆかない」。

こうして15日から準備作業がはじまった。まず店舗に残る食料在庫を2トンロングトラックへの積み込み作業を開始。

リアスさんに運んでもらったおしゃぶり昆布・とろろ昆布は口にしてはいたものの、モニタリングデータを確認しないまま作業に入っていた。夕方、東海村・千葉市の空間線量が異常な高線量率を記録したことを知り、ブルームが通過したようだということをやっと知ることになった。手遅れだったが、もう仕方なかった。

「原発震災」とは災害による生存と、被ばくが同時に伴う。

○組合員の理解

店舗はガラガラ。ほとんど何もなくなった。店頭には「店舗の商品を被災地に持ってゆきます。組合員のみなさんのご理解・ご了解を」との張り紙に、組合員からは「私たちはもう大丈夫だから。被災地に持って行って」。なんとありがたい言葉だったか。心同じくする言葉を頂くと勇気がわいた。

共同購入でも同様に、被災地を心配する声が寄せられた。飲料水としてのペットボトルも岩手岩泉龍泉洞の水も栃木精進沢の水も工場の損壊で出荷不能。日本生協連から大量に手配したコープ谷川山系の水は、組合員に配給されることなくそのまま東北被災地行きトラックへ積み込まれた。

○混乱の被災地入り

生協は災害時に地域や被災地のために物資輸送を担うことを県行政と契約していたことから、「災害支援物資指定輸送トラック」の許可による道路優先通行マスクをトラック前面につけて走ることに。

ではいったいどこへ。宮城県災害対策本部に電話しても、また仙台市災害対策本部に電話を入れても、電話口の状況からして混乱を極めていることが伺われ、どこに食糧物資を運んだらよいか一向に明確な指示が来ない。

「とにかく宮城まで行け。朝までにどこに運ぶかを確認して連絡するから」ようやく16日夜11時、専務を筆頭に最初の便が宮城に向かった。ところどころ道路に亀裂が入り大きな段差がある東北道を北上して仙台市に入ったのが朝6時すぎ。

宮城県、仙台市の災害対策本部は朝になってもてんやわんやでどこに運ぶか埒があかない。「とにかく海岸線に向かって行けるところまで行き、人が避難しているところまでたどり着け」「いや、高速道路の向こうは津波でがれきと泥で入っていけない」「仕方がない、仲間のあいこブみやぎに向かえるか・・・」

こうしてあいこブみやぎに食糧を託して帰途に。あいこブみやぎでは配達中に津波にのまれた職員、家族を失った職員さんがいた。（大石）



今週は父親をニューギニア戦線で失った本橋さんのお話の前段を紹介いたします。

それは「召集令状」と帰ってきた「骨壺」のお話からはじまりました。

○「ニューギニア戦線 遺族の思い」(1)

父は英霊と書かれた紙切れ1枚入った骨壺で帰ってきた

父に「召集令状」がきたのは、昭和18年3月、私が8歳、次男が6歳、三男は母のお腹にいる時でした。3度目の令状でした。それっきり終戦までの2年5カ月、帰ってくることはできませんでした。戦死の知らせは、終戦を迎えた年の暮れでした。遺骨が入っているとする「骨壺」は、英霊と書いた紙きれ1枚でした。



「召集令状」

母は、阿見町にニューギニア戦線から帰って来たという人を尋ねて、本当に父が亡くなったのか、どんな亡くなり方をしたのか、必死に聞きに行ったそうです。マラリアに罹って、体力が無かったために死亡。原住民が穴を掘って埋めて蔵ってくれたという話でした。

私は、母が父の分まで畑仕事をしなければならなかったのも、弟たちの面倒をみながら育ちました。食べ物はお米は食べられず、さつまいも、じゃがいも、里芋などでした。お弁当は新聞紙で隠して食べました。着る物、草履などは、近くの川や田んぼで、うなぎ、どじょうを捕ってそれを売ったお金で買いました。昭和26年、中学を卒業するとすぐに農業をしました。友達が高校進学する中、家は貧しいので、とても進学したくてもさせてもらえません

でした。当時の農業は鍬やまんのうで土を耕す重労働でした。

地区の会合などにも父の年齢以上の人達の中に混じって出席しました。若いのでバカにされることも多く、父が戦死すると息子は苦勞を背負って生きていかななくてはならず、不公平だと思ったものです。貧乏も派手な貧乏でした。土地も借りて作物を作っていたのですが、一生懸命働いて、働いたお金で少しずつ借りている土地を買いました。

下の弟は少しずつ稼いだお金で航行に行かせてあげることができました。ようやく人並みな生活ができるようになりました。よく母が言っていたことですが、「昔の暮らしと比べると、今は殿様の暮らしだなあ、ということです。」戦後、日本全体が急激に暮らしが豊かになったんですね。

昔は「修身」という授業があって校長先生が教えてくださいました。今の道徳よりももっと充実した科目でした。日本人の生き方とかを、武士道、茶道、柔道を通して詳しく教えていただきました。戦後はその教育がなくなってしまった。そのことが、今の学校教育に影響を与えているのではないかと心配しています。

ただ、その当時の学校では、戦争を奨励するような教育もあったので、その辺は見習わない方がいい。これからの子どもたちには、戦争がどんな悲惨な意味の無いことか。しっかり教えてもらいたい。が、家庭でまずは戦争によって子どもがどんなみじめな目をするようになるか、皆さんは考えて欲しいと思います。

(次週、パプアニューギニアへ慰霊巡拝のこと)

第40回 脱原発と暮らし見直し委員会（報告）

2015年3月2日（月）守谷市中央公民館2階団体活動室で10時～13時16人参加。市町村のセシウム測定データ収集と5つのチーム活動の報告を聞き話し合いました。

1 チーム活動開始！

○市町村のセシウム測定データ収集

今年1月以降の各地の検査状況を中心に確認しました。シイタケは依然として高い数値が出ており、レモン・みかん・ゆずなど柑橘類や玄米でも少なからず検出されています。

★自治体の検査結果にも気を付けて身近な状況を把握しましょう。

① DVD 貸出：これまでのところ、貸出11種、貸出人数8、観覧人数42（延数）です。DVDの返却と一緒に戻ってくる組合員からの感想をまとめて、時々生協のニュースにのせてもらうことにします。

② アンケート：2月にカタログと一緒に組合員アンケートを配付しました。現在までのところ回収されたのは44枚です。これから集計を始めます。

★アンケートの回収にご協力をお願いします。

③ 知る見るリーフ：チームで打合せし変更した案について相談し、意見をもらいました。納期は3月中→4月以降へ変更になりました。タイトル案や内容のアイデアは随時募集中です。

④ 土壌の測定結果比較：土の放射能を測ることの意義と限界を再確認、国・自治体の行った土壌調査の洗い直し、生協および市民による土壌調査の再整理を行います。今月中にチーム会議の予定です。

⑤ 児玉先生の著作：児玉先生が新しい著作「活性酸素とミトコンドリアのものがたり」を発表されました。昨年1月に常総生協で講演された先生の講演録と、この新著作を1冊にまとめて販売出来るようにと計画中です。3月中にチームで集まり詳細を検討します。

★次回の委員会は4/10(月)10時～13時（生協本部2F・新家屋）の予定です。

小さな上映会便り No.1 (DVD貸し出し状況 2015.1.9)

常総生協 脱原発暮らし見直し委員会

1. 貸し出されたDVD 11種類

「放射性廃棄物」「チェルノブイリ・ハート」「六ヶ所村ラブソディー」
「ミツバチの羽音と地球の回転」「100,000年後の安全」「はだしのゲンの誕生物語」
「赤とんぼのいない秋」「ミツバチからのメッセージ」「未来の食卓」
「モンサントの不自然な食べ物」「フードインク」

2. 借りた人 8人 観た延べ人数 42人

3. 組合員さんの声から

「放射性廃棄物」「六ヶ所村ラブソディー」

地球は海も陸も核のごみ箱なのですね。安全な場所なんかあるのでしょうか？秘密主義の原子力産業はただただ恐ろしい。難しいことは分かりませんが、知らないではすまされせんね。人体実験をされているのですから。調査し、現状を知る常総生協の活動は、とても大切なことですね。(牛久市 Hさん)

「ミツバチからのメッセージ」

ネオニコチノイド系農薬の恐ろしさが良く分かりました。その農薬が日本全国で使用されているという事実をたくさんの方が分かるように、このDVDを多くの人に見てもらいたいです。(我孫子 Mさん)